

キャリア・パスポート 「伊都っ子ノート」の取組について



福岡県教育庁教育振興部
高校教育課

1 研究目的

社会的な変化が子供たちの進路に大きな影響を及ぼしている近年、児童生徒が主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、社会的・職業的自立を促すキャリア教育は重要である。

このような中、校種を超えて、小学校から高等学校までの教育活動におけるキャリア教育について、学びのプロセスを記述し振り返り、自身の足跡とともに今後の将来像を主体的に確認できる教材として「キャリア・パスポート(仮称)」を作成する。この教材を活用することにより、ポートフォリオ的な振り返り活動を通して個人評価を行い、主体的に学びに向かう力を育てる。併せて、活動の過程において、身近な大人である教員や保護者との関わりやその影響力に気づくことにより、自己のキャリア形成の確立に資する研究とする。

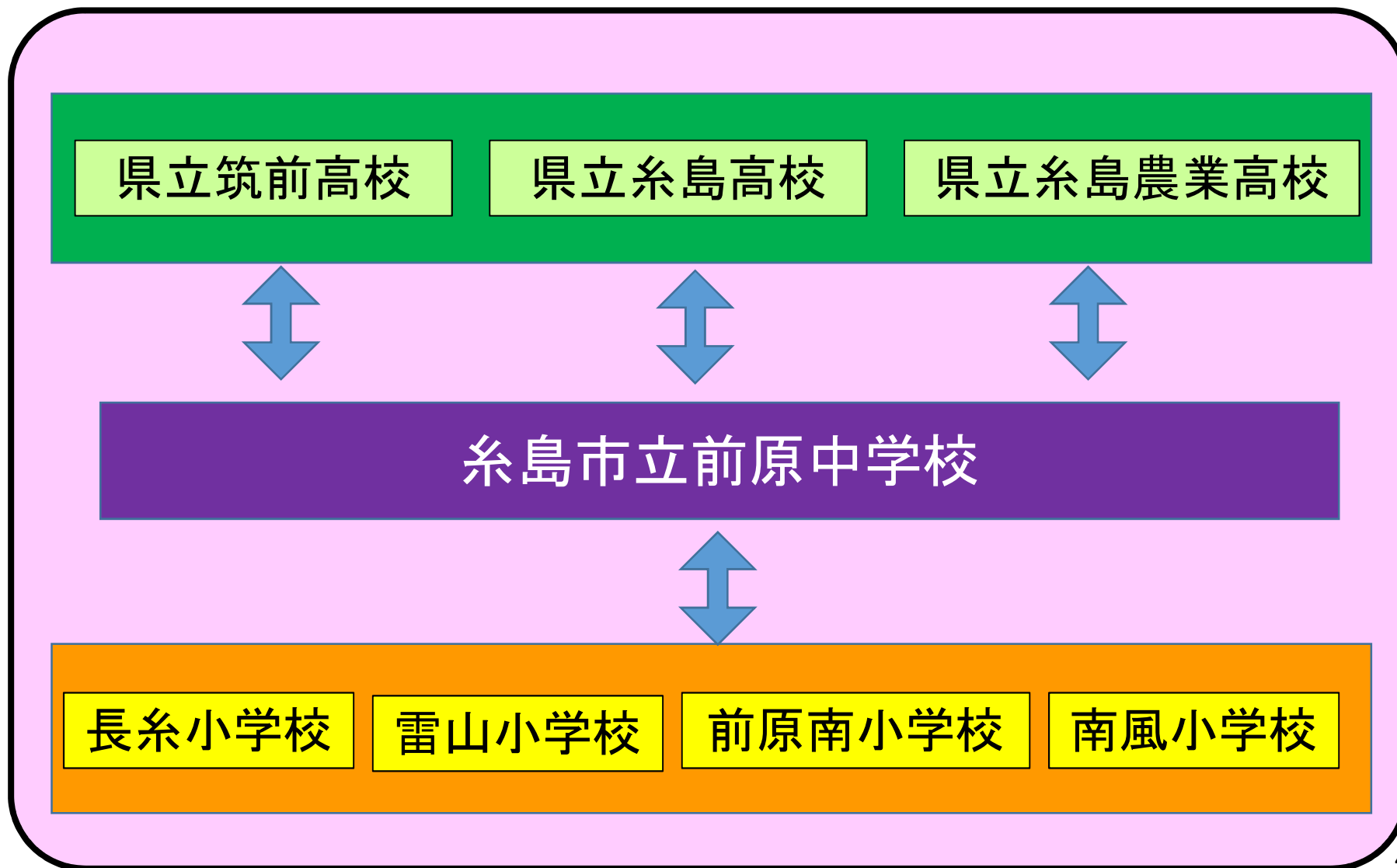
2 研究指定の実施状況



小学校→中学校→高等学校への進学時に追跡調査が可能で、広範囲に進学する傾向が少ない地域

糸島市を中心とした糸島地域を選定

研究の連携・協働体制



連絡協議会の体制

連絡協議会

各実施校のPTA

各実施校の管理職・教員

管理機関

糸島市教育委員会

福岡県教育庁教育振興部
高校教育課・義務教育課

3 研究実施報告(平成29年度)

- 8月末 文部科学省からの本事業の概要説明
- 9月29日 **第1回キャリア・パスポート連絡協議会**
- ・趣旨及び事業内容の説明
 - ・糸島市立学校キャリア教育教材の調査
- 10月20日 **第1回キャリア・パスポート担当者会議**
- ・教材作成及び実施方法等の意見聴取（メールの活用）
- 11月 担当者からの意見聴取及び教材作成
- 12月 1日 教材（見本）の配付
- 21日～ 教材（生徒分）の配付
- 1月24日 **第2回キャリア・パスポート担当者会議**
- ・平成30年度版教材への反映に向けた検討
 - ・管理、引継ぎ等に関する方策の検討
 - ・アンケートの実施及び集約に関する検討
- 2月23日 アンケートの回収
- 3月12日 **第2回キャリア・パスポート連絡協議会**
- ・本年度の事業説明
 - ・アンケート結果
 - ・平成30年度版の教材配布

3 研究実施報告、計画(平成30年度)

- 年度始め 「伊都っ子ノート」への記入
- 6月13日 アンケート(保護者、教員)の回収
- 6月26日 **第1回キャリア・パスポート連絡協議会**
- 1月末まで 「伊都っ子ノート」への記入
- 2月中旬 アンケート(保護者、教員)の回収
- 3月中旬 **第2回キャリア・パスポート連絡協議会**
- 3月下旬 事業完了報告書提出

4 「伊都っ子ノート」の作成について

- 1 各学校の教材調査
- 2 伊都っ子ノート原案作成、意見聴取
- 3 「鍛ほめ福岡メソッド」のコンセプト決定
- 4 素材の検討(ファイルの活用方法の検討)
- 5 使用説明書作成

5 伊都っ子ノートの作成で考慮した点

- ・各学校の教材調査
(キャリア教育、総合的な学習の時間、職場体験活動など)
- ・既存の教材を活用し、内容の重複を避ける。
- ・教材の使用は、年度始と年度末の2回の実施に向けた作成

作成のポイント

- ◎1年間の自分の頑張ったことをふりかえれるように書き溜めるもの
- ◎将来の自分に向けて、自分の足跡を文字で残すもの
- ◎中学または高校卒業後の進路を決定するとき、自己の将来の生き方や就きたい職業を考えるなどの資料とするもの

6 「伊都っ子ノート」のコンセプト

福岡県では、「未来人財」を育成するために、毎年「福岡県教育施策実施計画」を策定し、福岡県独自の指導方法「鍛ほめ福岡メソッド」を展開しています。



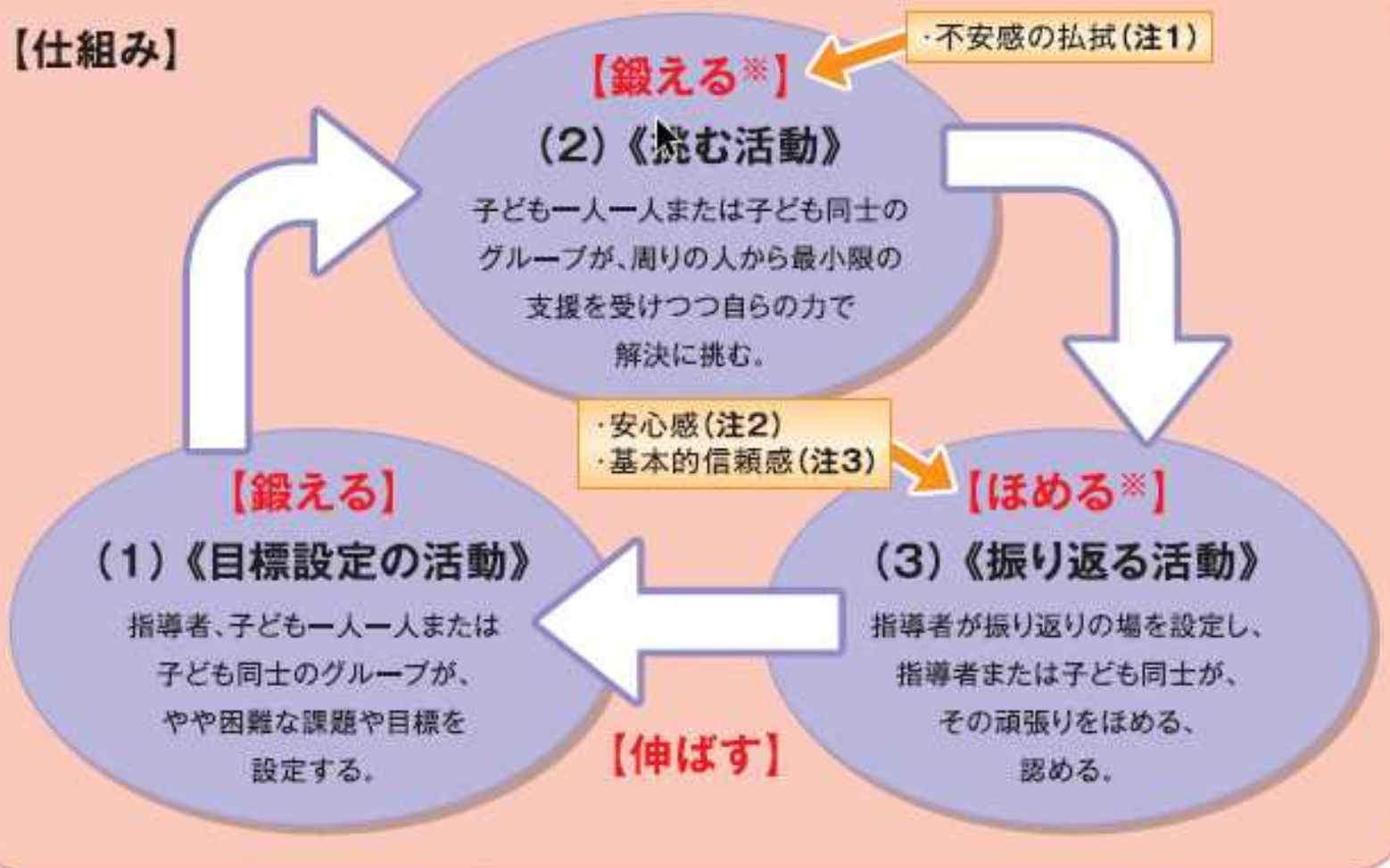
【コンセプト】 鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす！

鍛えて(いろいろ試して解決したいと思う心やできないことをできるようになりたいと思う心を)

ほめて(取組の結果や取り組んできた過程を)

子どもの可能性(学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心等)を伸ばす。

【仕組み】



鍛ほめ福岡メソッドをコンセプトにした 伊都っ子ノートの共通項目

- ① 「教科」「教科外」「学校外」のことについて、目標を設定し、振り返るもの。
- ② 自分自身を知るきっかけとなるもの。
- ③ この教材を通して、周囲の大人とのつながりを感じることができるもの。

小学校低学年、中学年、高学年、中学校では各学年で作成し、高等学校では同一のものを使用することとして各発達段階に応じて、7種類を作成しました。

7 平成30年度の実施校・人数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
糸島市立長糸小学校	21	18	13	16	16	17	101
糸島市立雷山小学校	28	53	41	30	39	45	236
糸島市立前原南小学校	103	104	115	85	113	104	624
糸島市立南風小学校	88	88	90	101	136	104	607
糸島市立前原中学校	191	214	226				631
福岡県立筑前高等学校	400	433	395				1,228
福岡県立糸島高等学校	320	314	313				947
福岡県立糸島農業高等学校	160	152	154				466

合計 4,840名 ¹³

8 伊都っ子ノートの活用

平成29年度

平成29年12月 伊都っ子ノートの配布

平成30年 1月 年度末の記入

平成30年度

平成30年 5月 年度始の記入、アンケート実施

平成31年 1月 年度末の記入、アンケート実施

記入上の留意点

◎年度末の記入にあたっては、入試前の心情を鑑み、1月に記入

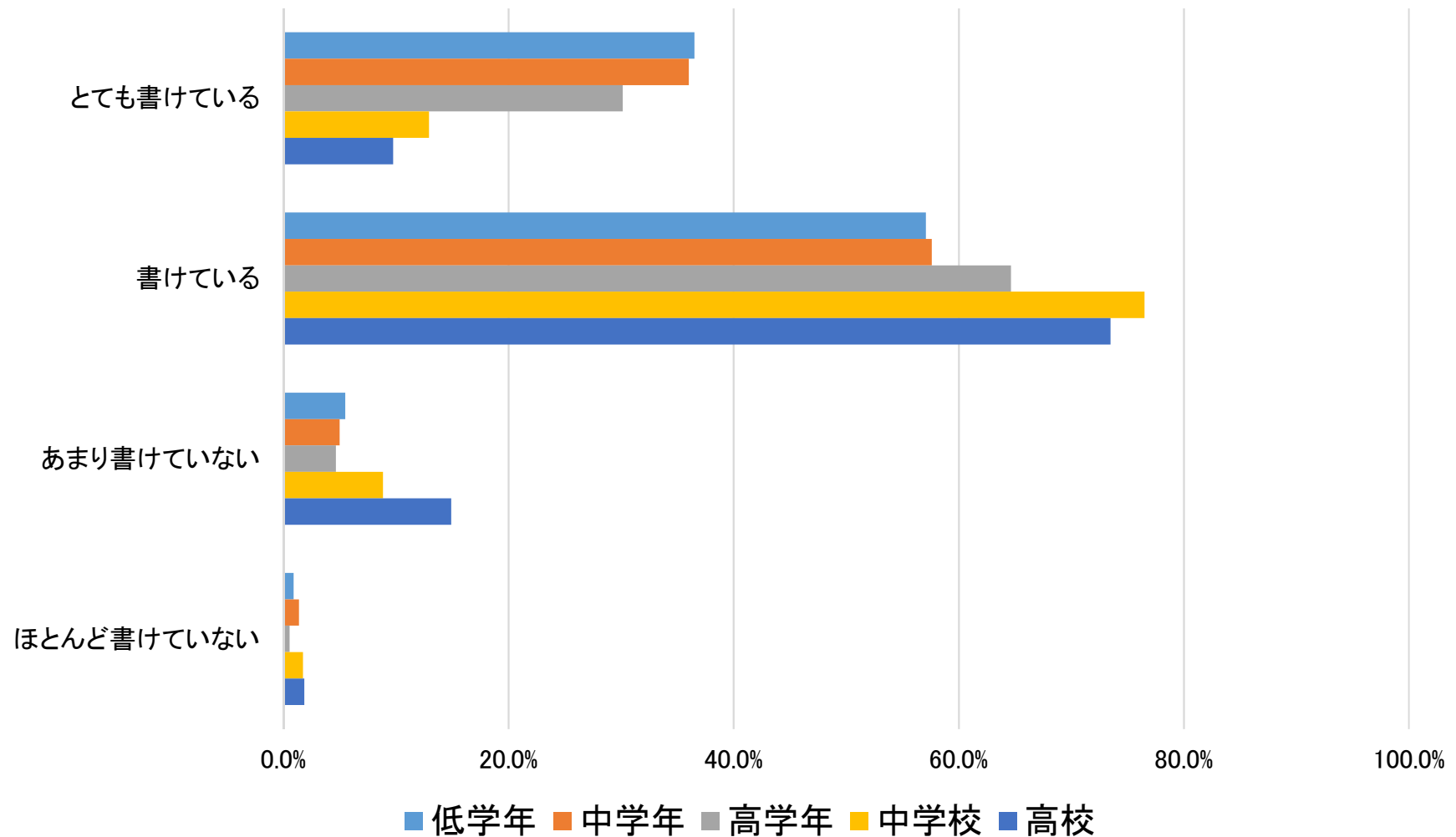
(1) 伊都っ子ノート実施アンケート (平成30年5月実施)

アンケート回収率

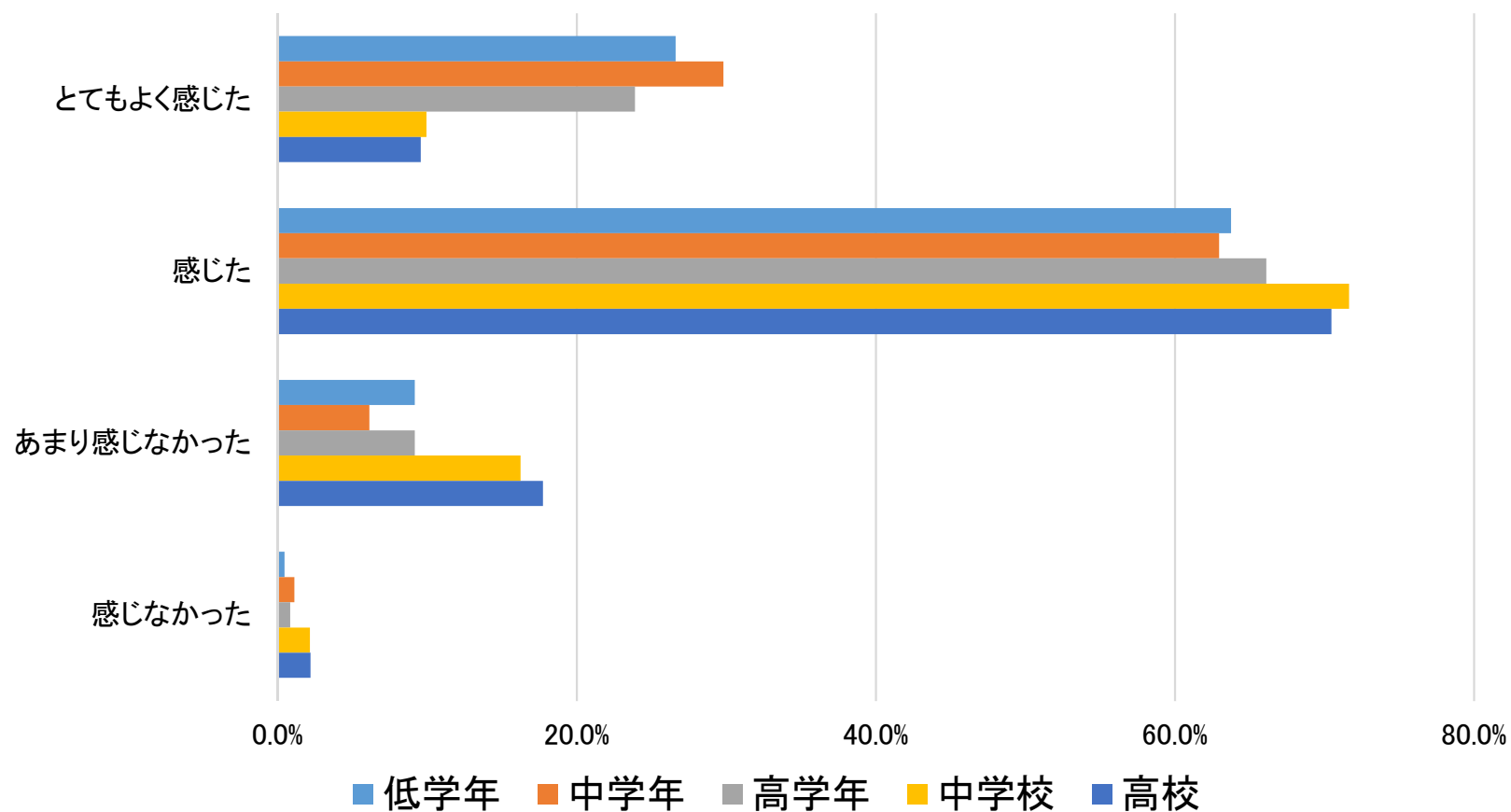
	保護者	教員
小学校	60.3%	38.4%
中学校	73.5%	97.8%
高等学校	75.7%	91.3%

(2) 保護者アンケートの結果

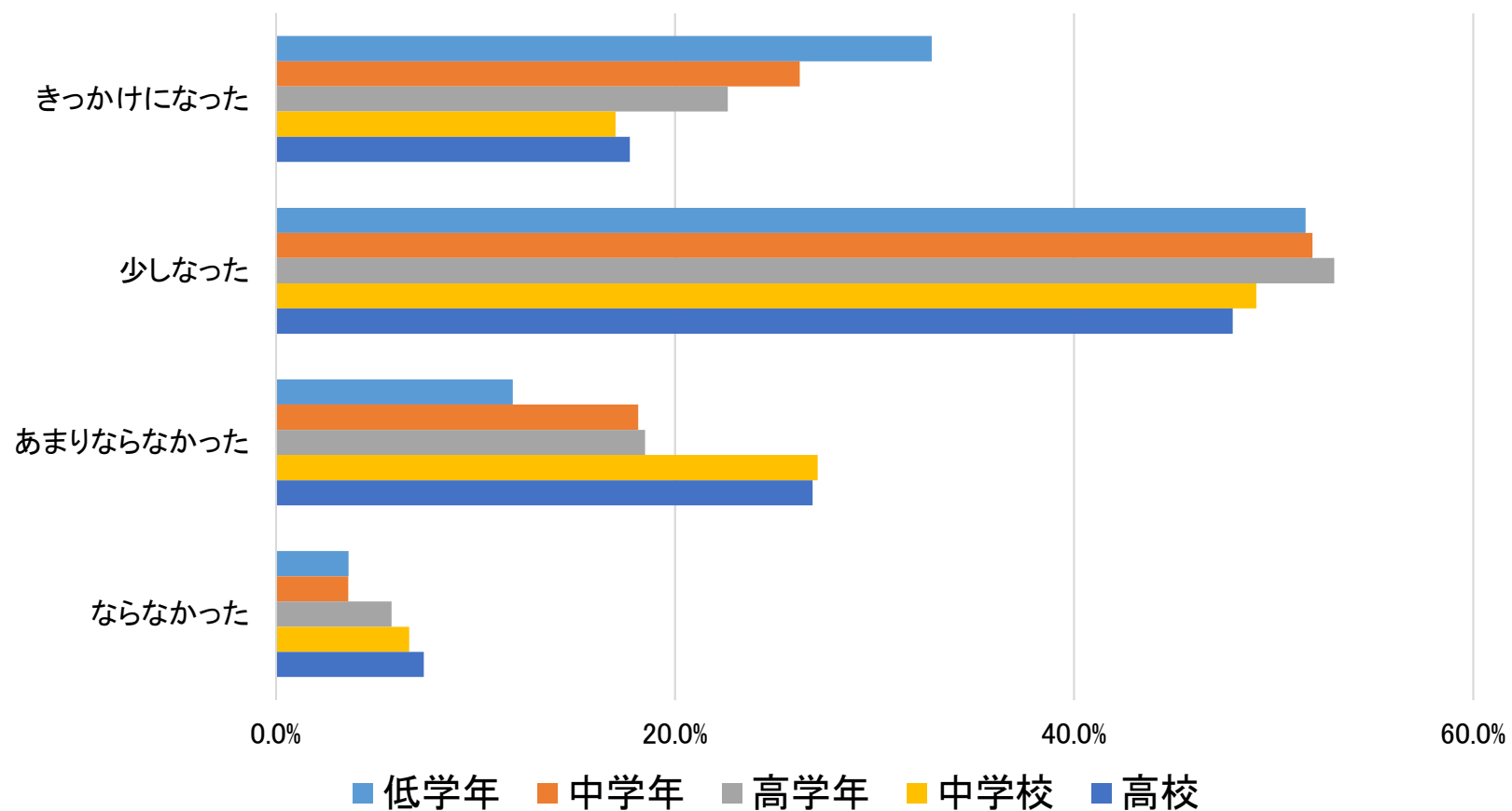
ア お子様の記入状況についてどう思いましたか。



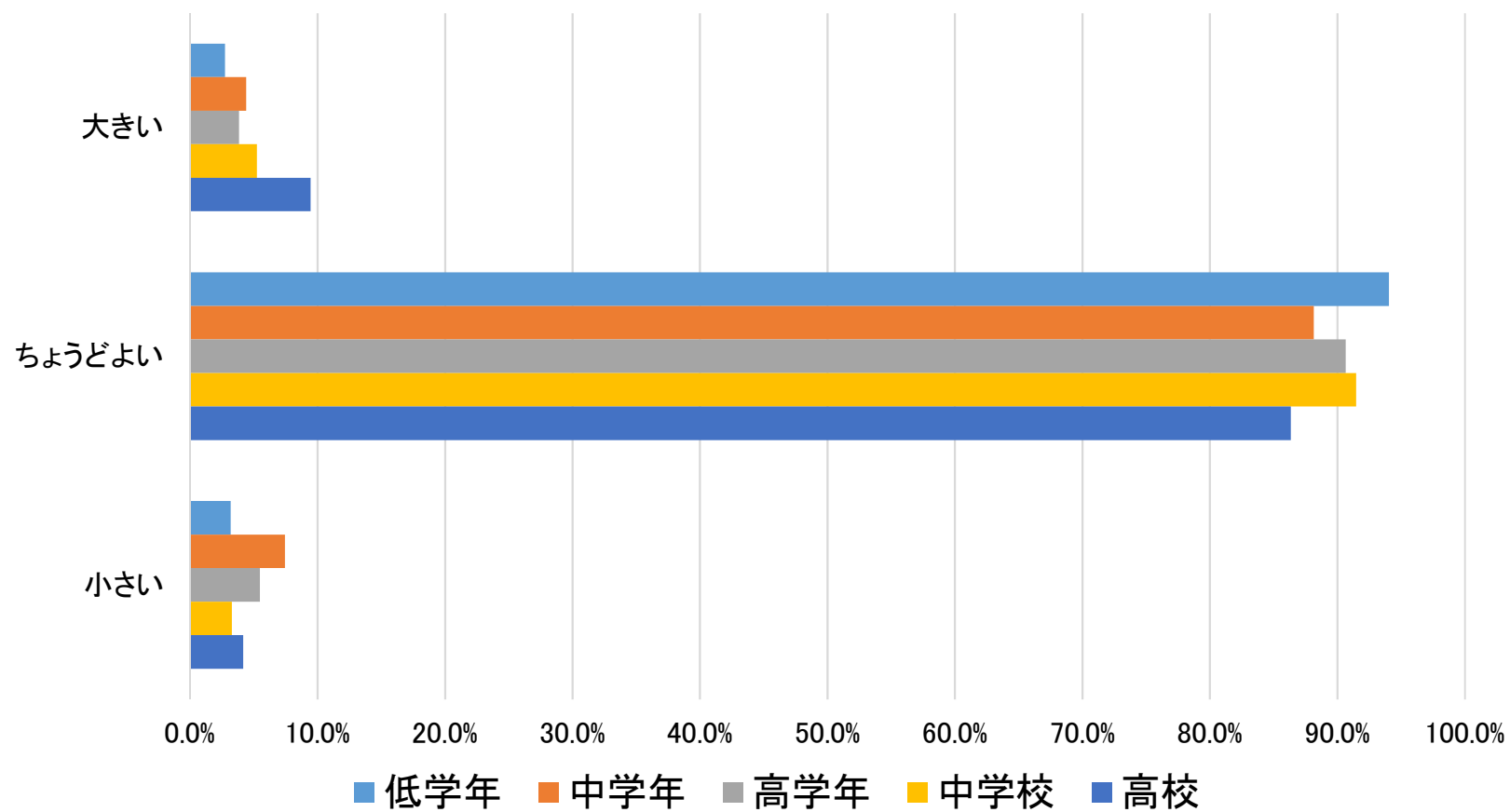
イ 「伊都っ子ノート」の記入内容を見て、子どもの成長を感じましたか。



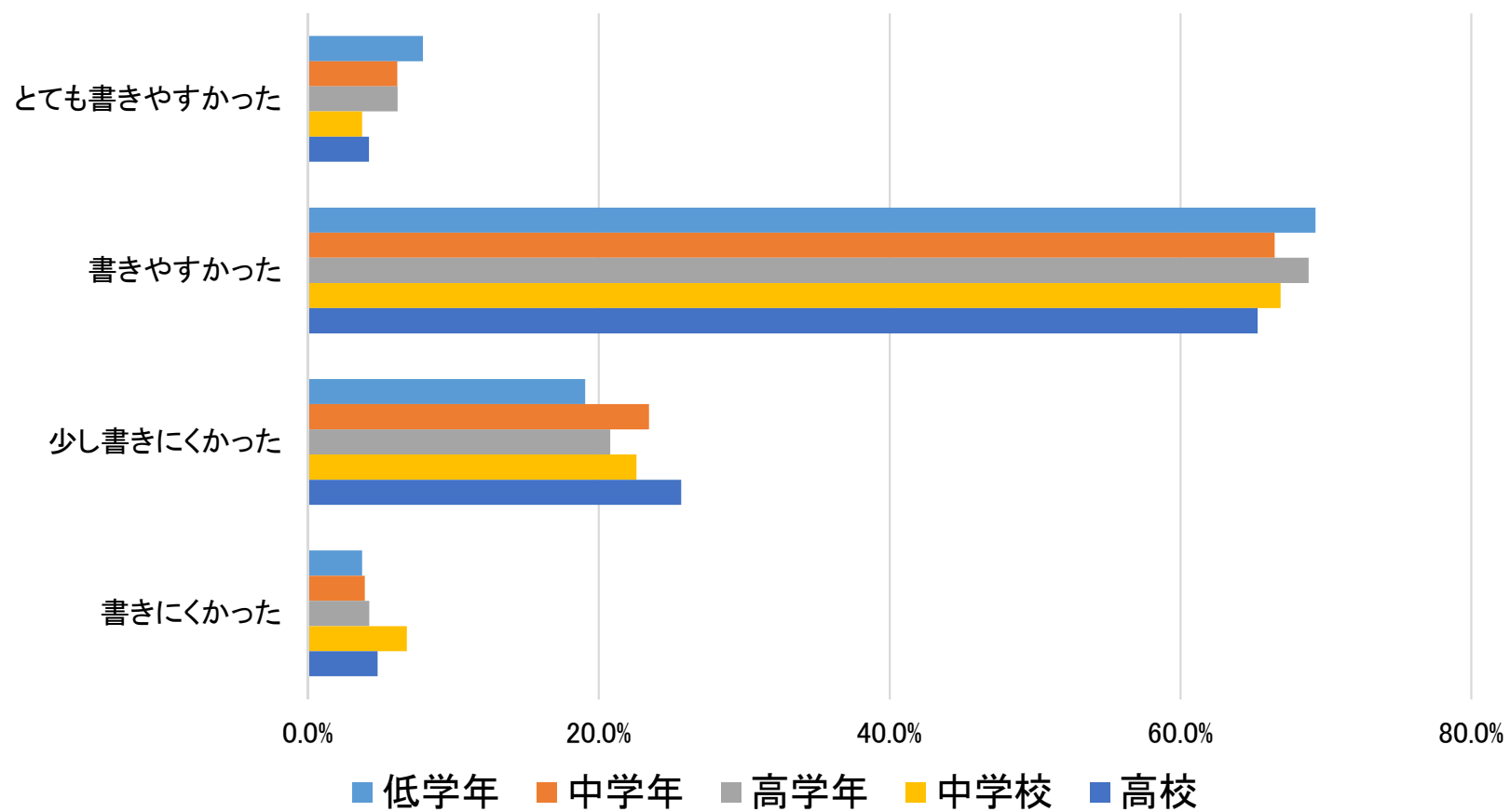
ウ 「伊都っ子ノート」をお子様を持ち帰り保護者欄へ記入してすることで、お子様と将来のことについて話すきっかけになりましたか。



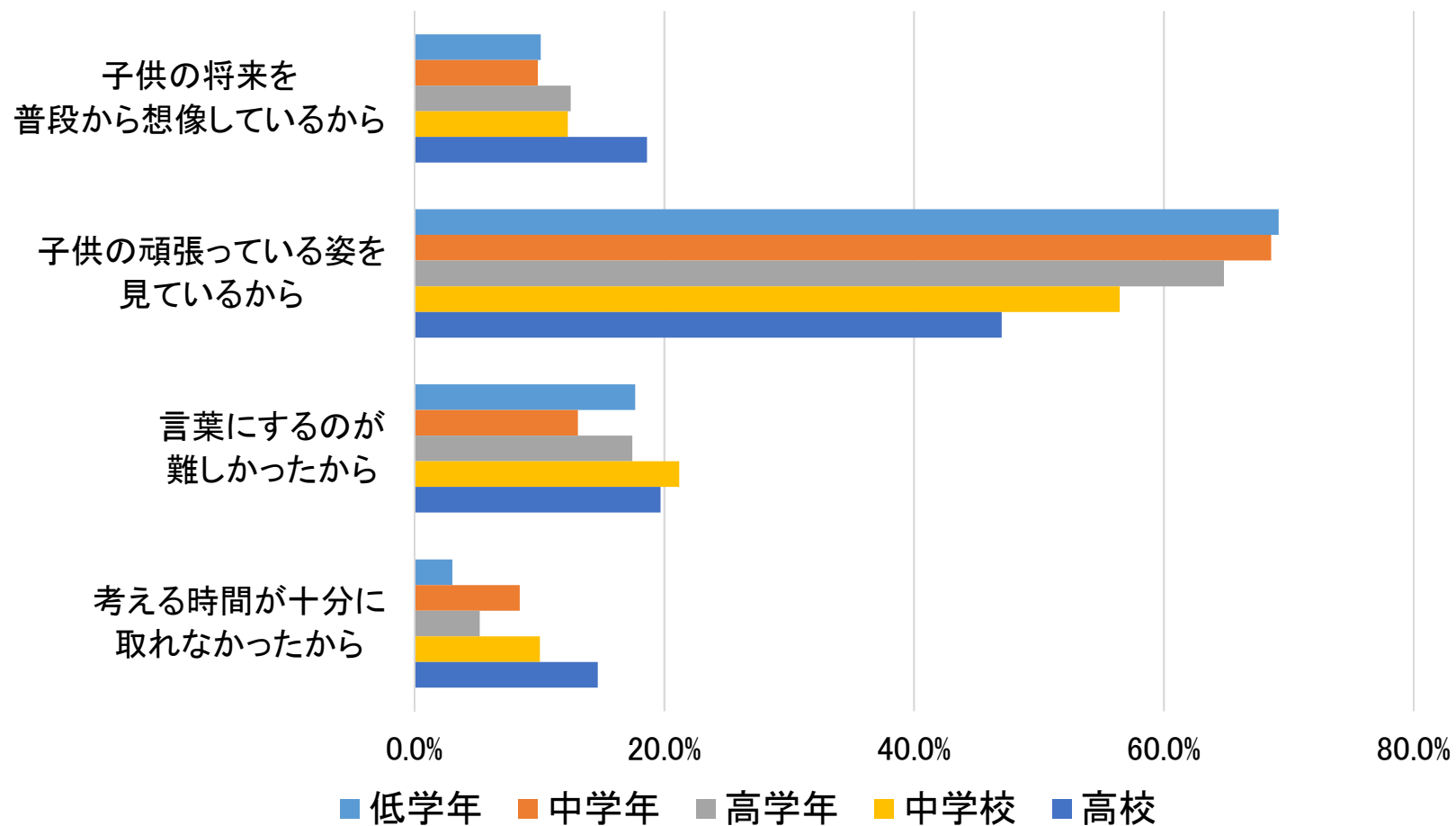
エ 枠のサイズはいかがですか。



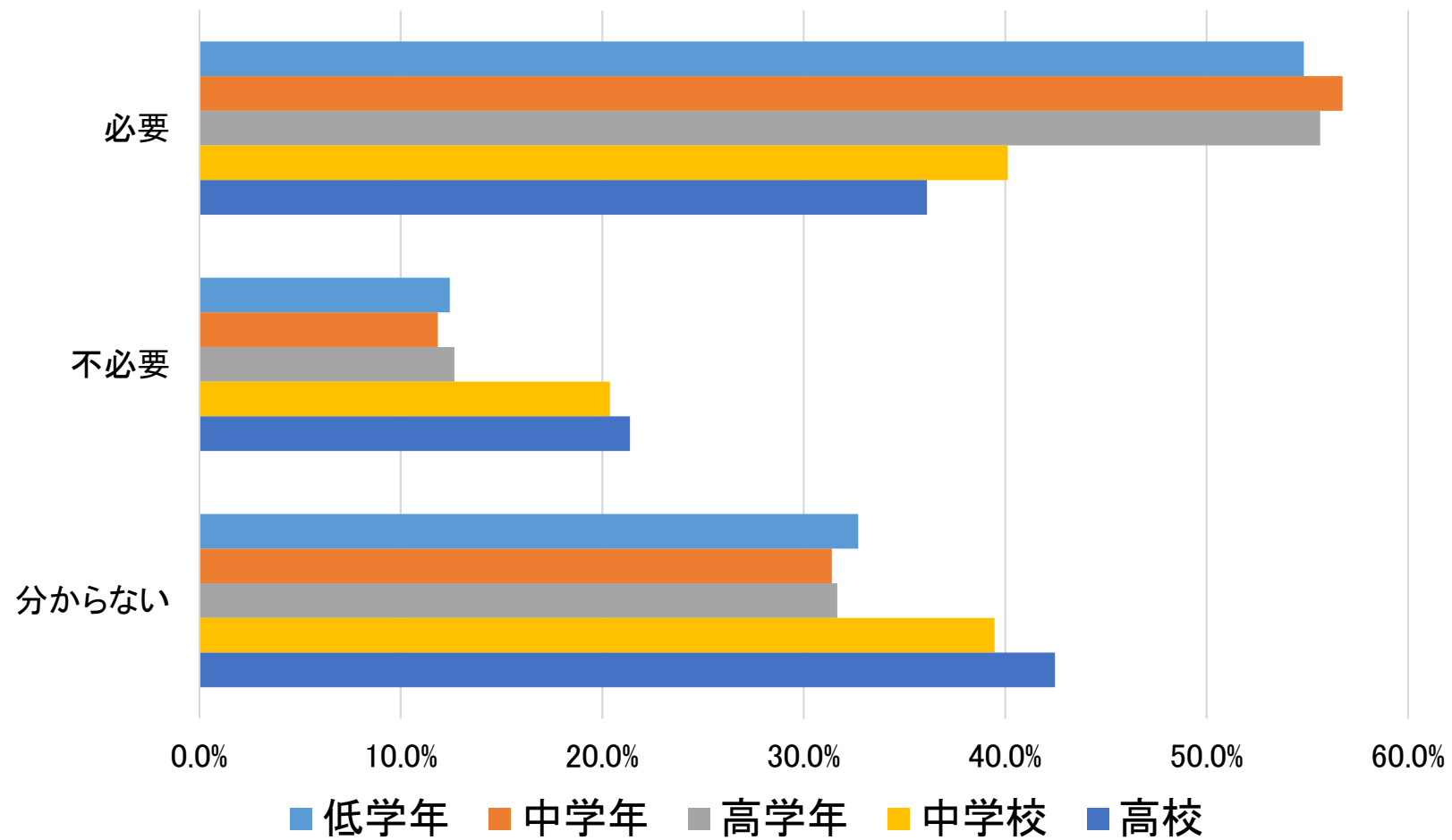
オ 保護者欄へ記入した感想は、いかがでしたか。



カ 保護者欄の記入した理由で、一番近いものはどれですか。

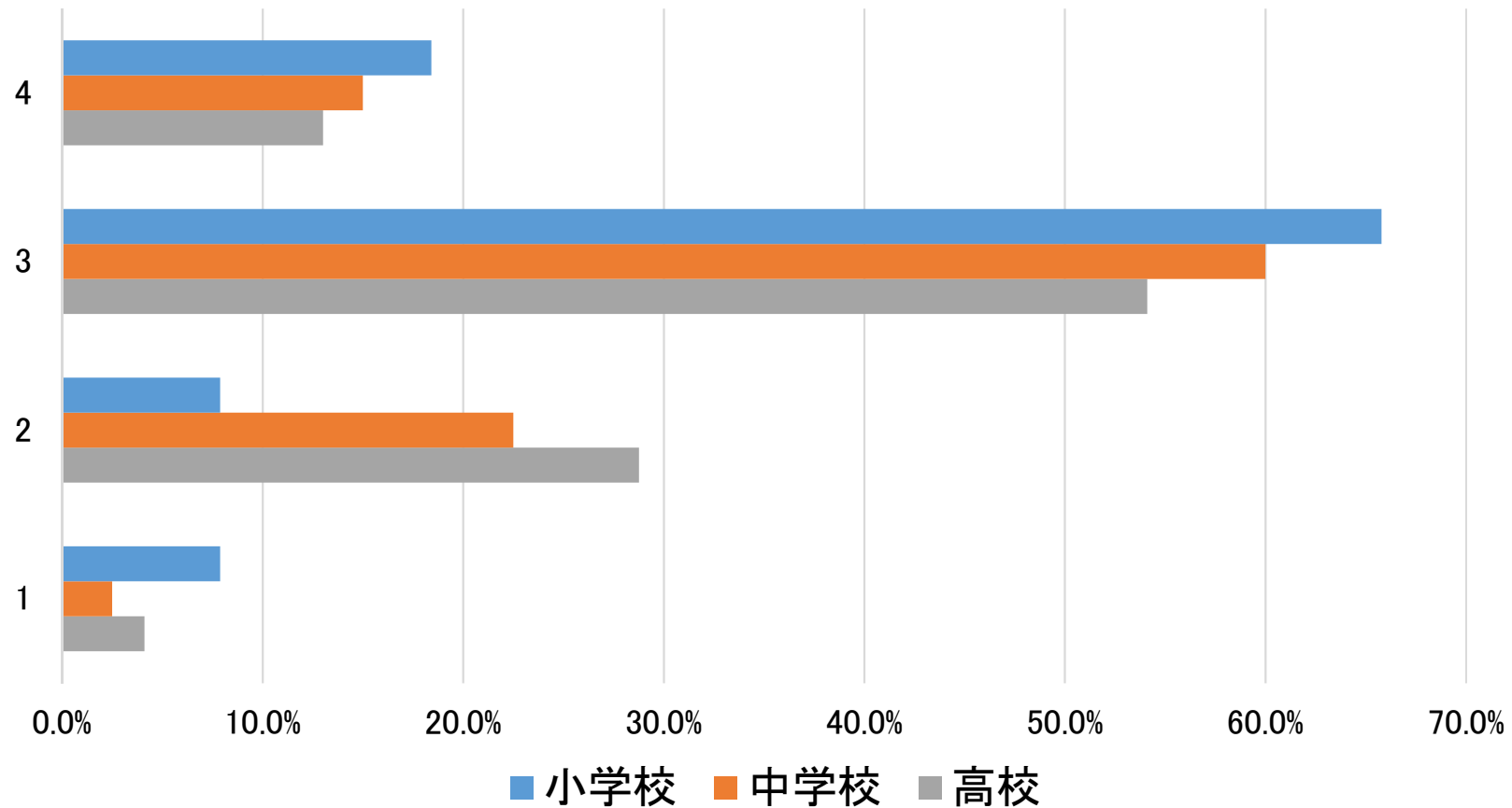


キ 保護者欄は必要だと思いますか。



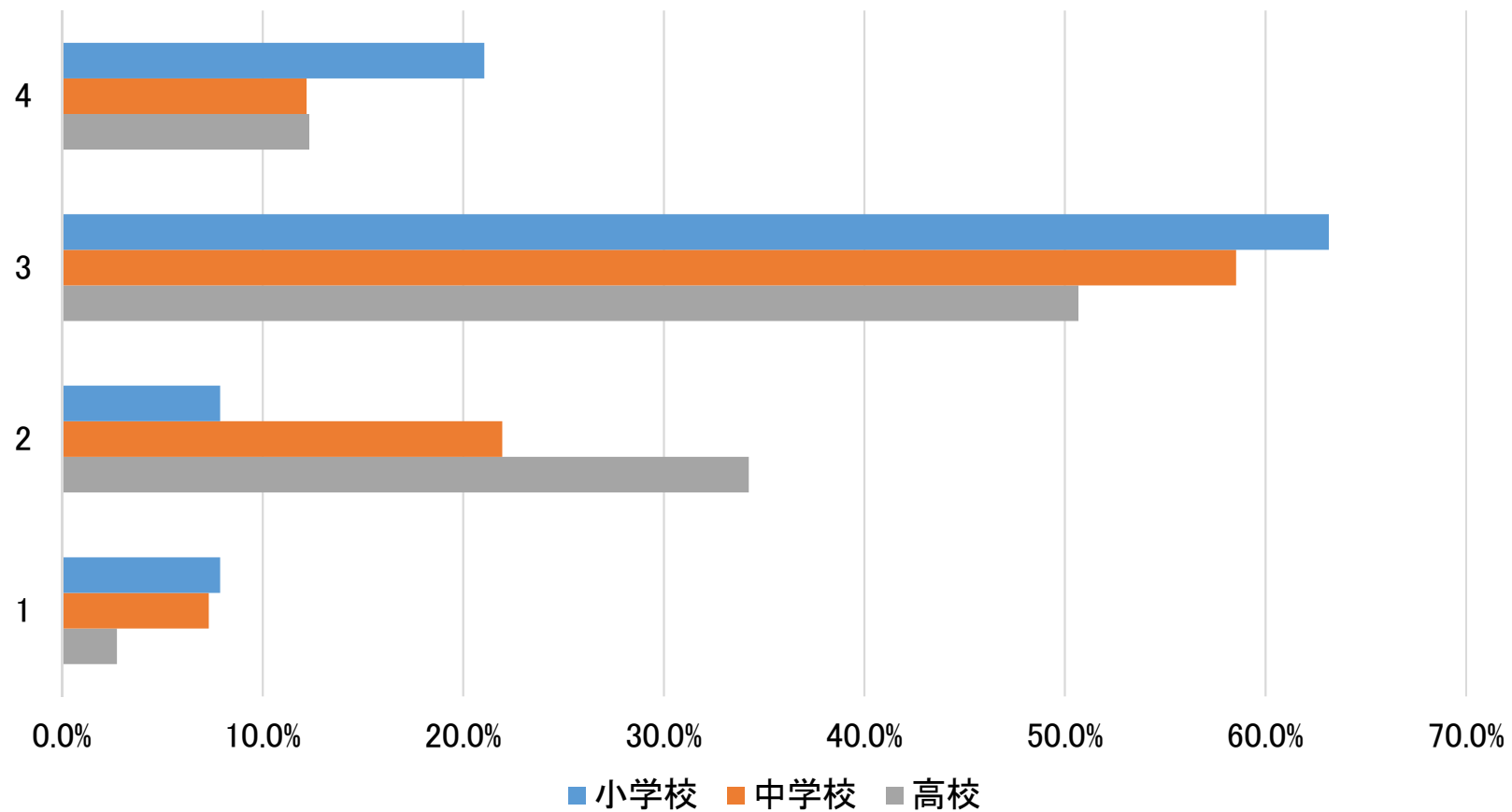
(3) 教員アンケート

ア 学齢に応じた内容であったと思う。



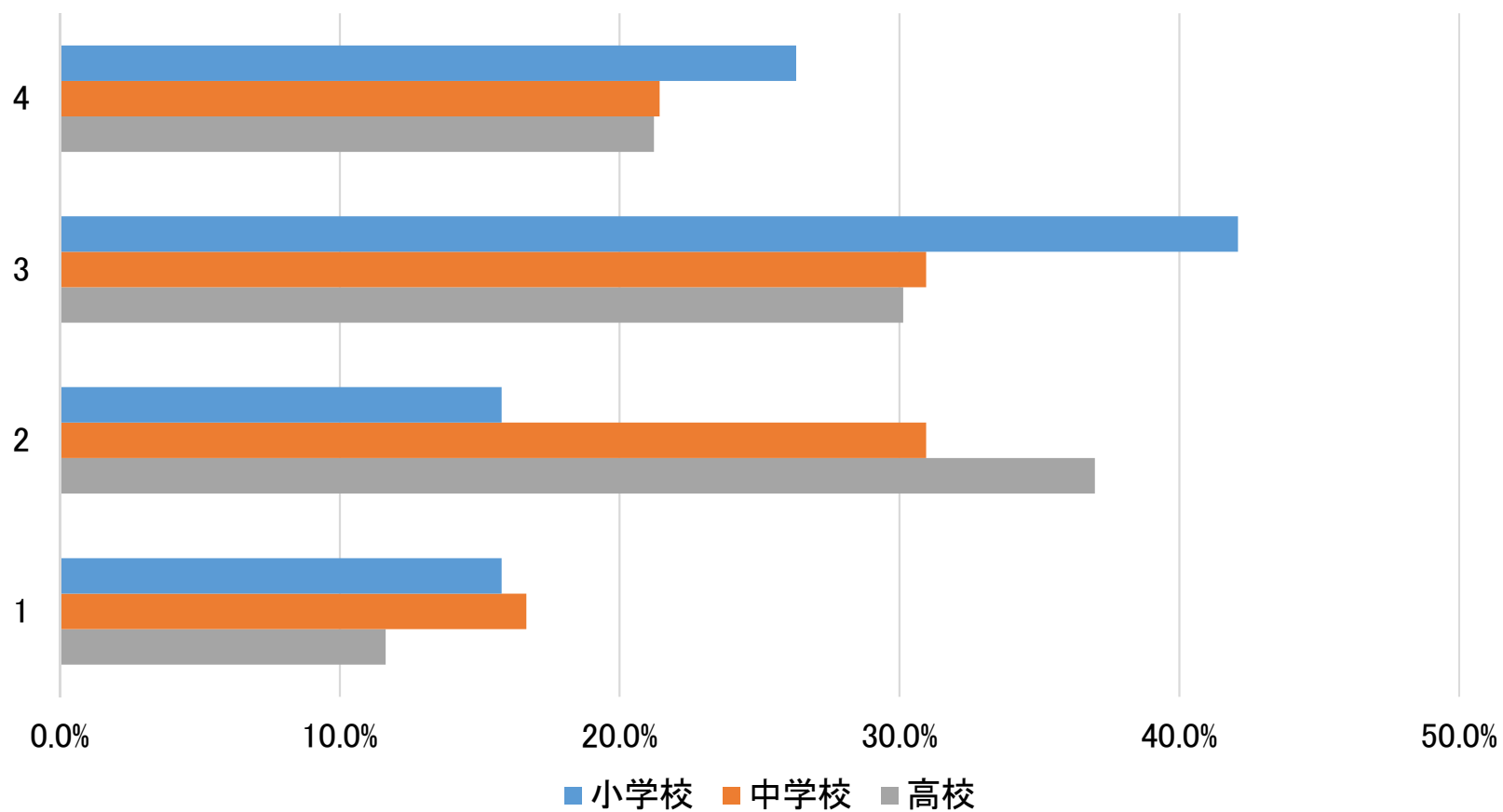
4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

イ 学齢に応じた分量であったと思う。



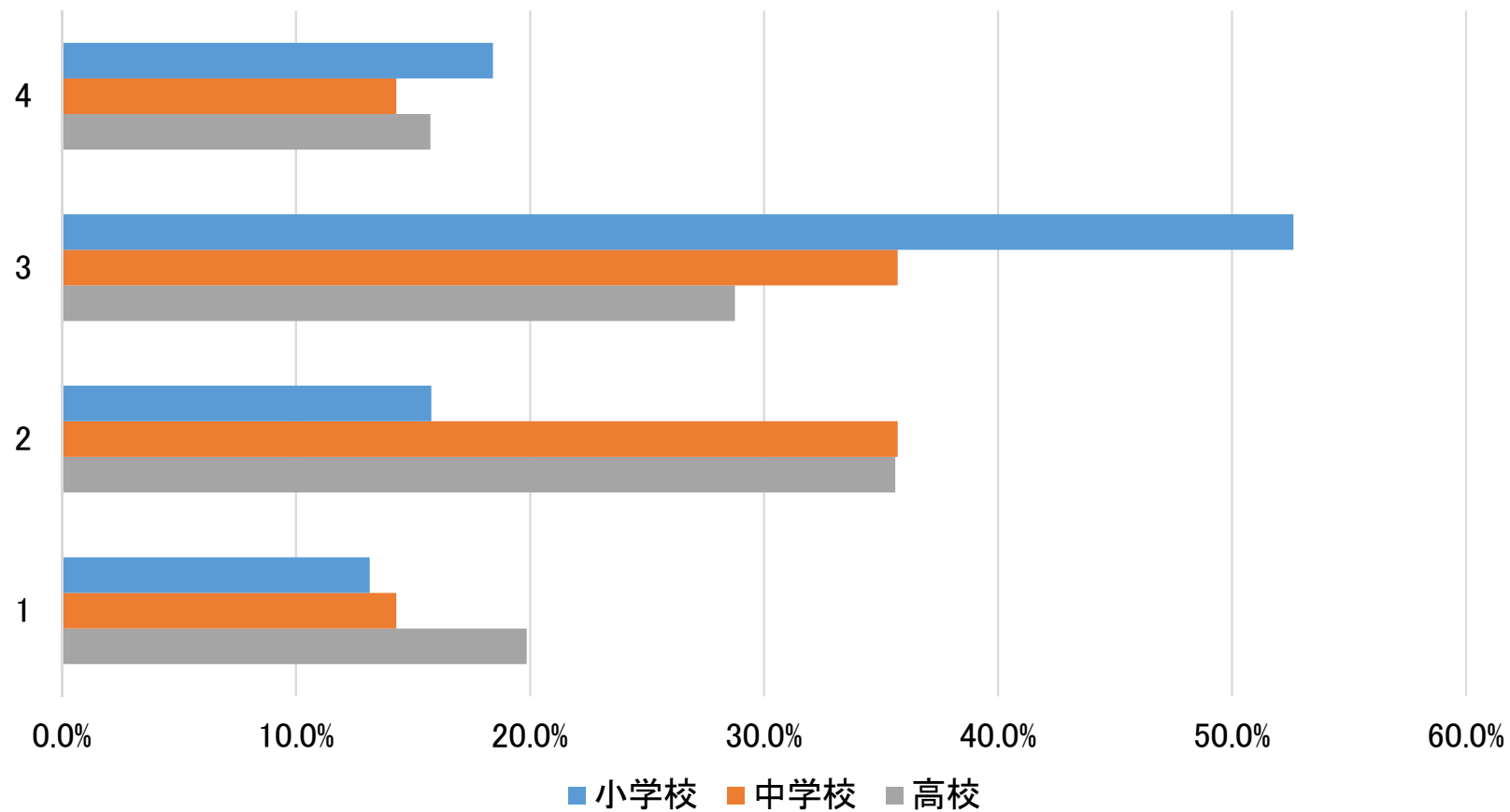
4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

ウ 学期ごとに保護者欄にコメントを記載していただくことは良いと思う。



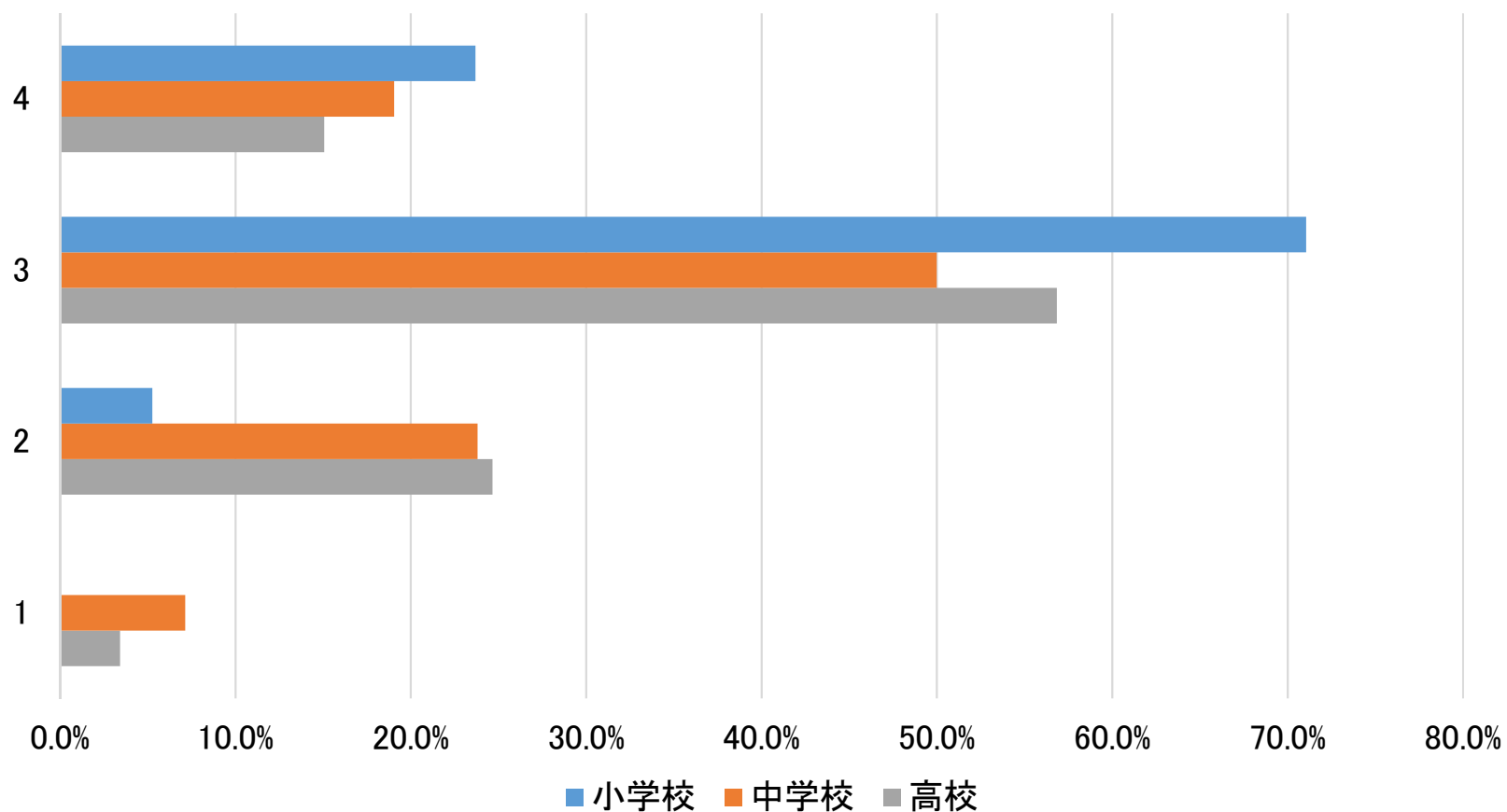
4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

エ 学期ごとに教員がコメントを記載することは良いと思う。



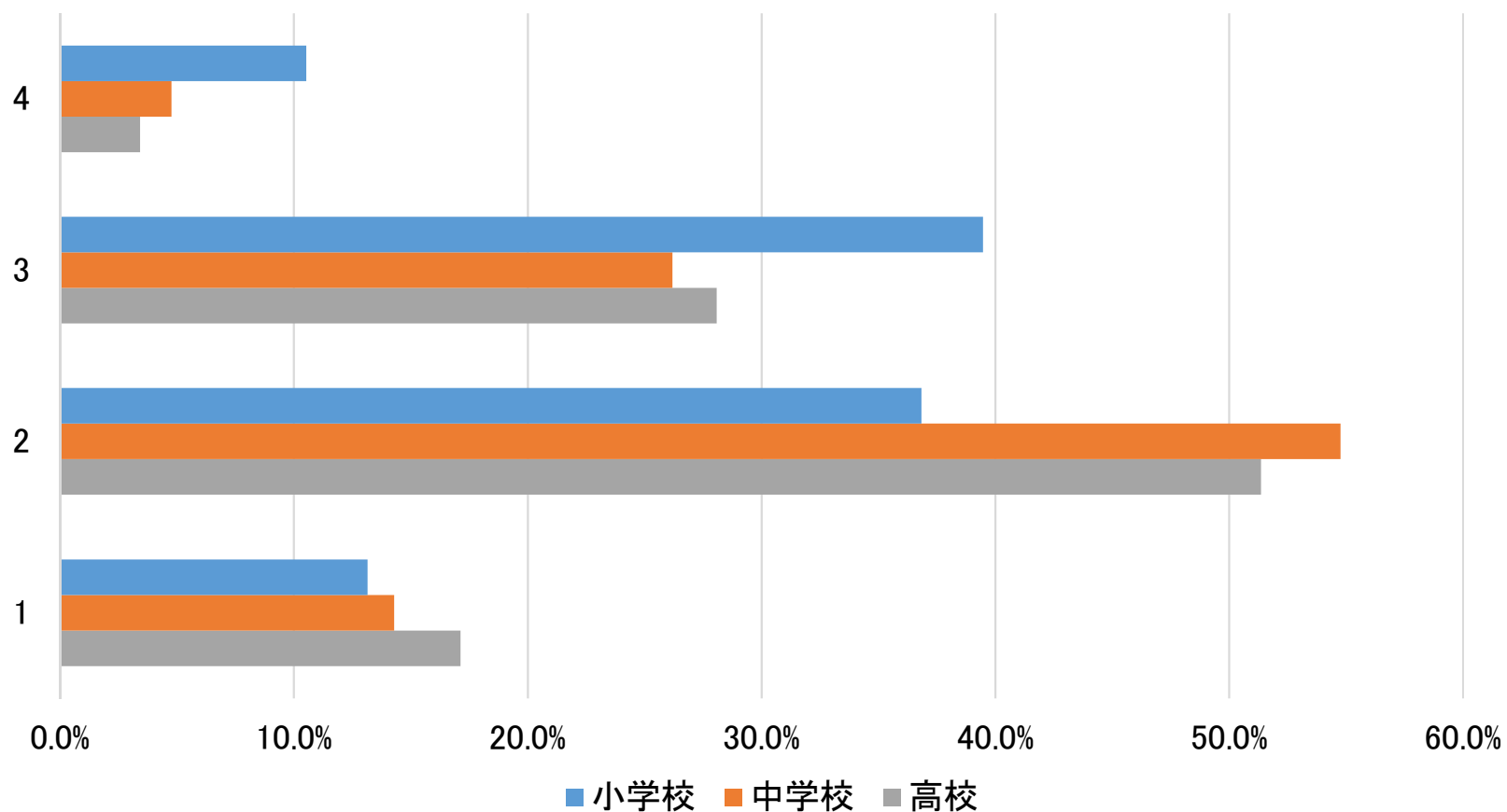
4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

オ 記載内容が「教科、教科外、学校外」であることは良いと思う。



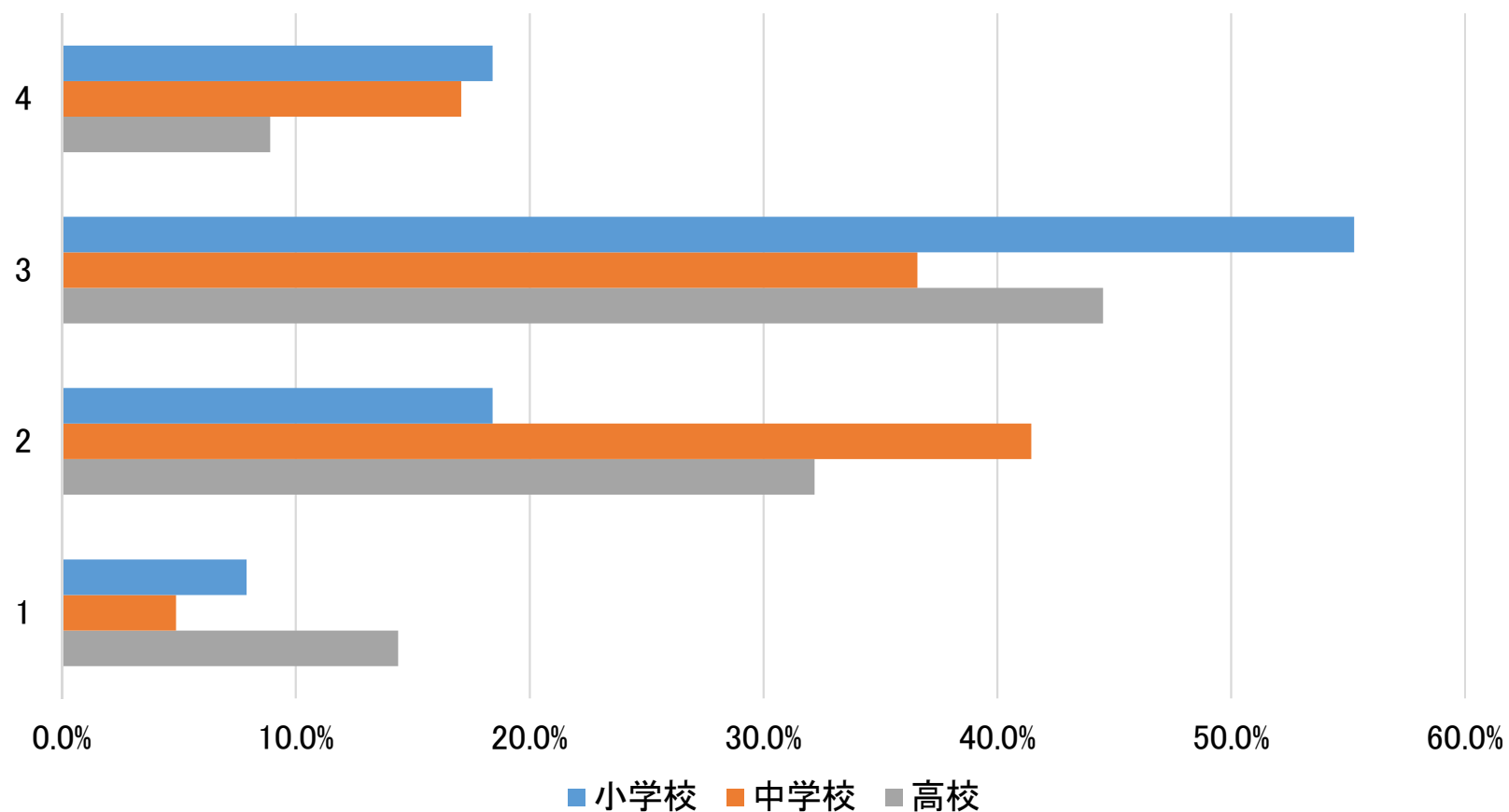
4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

カ 本教材と既存の教材とを併用して使える
と思う。



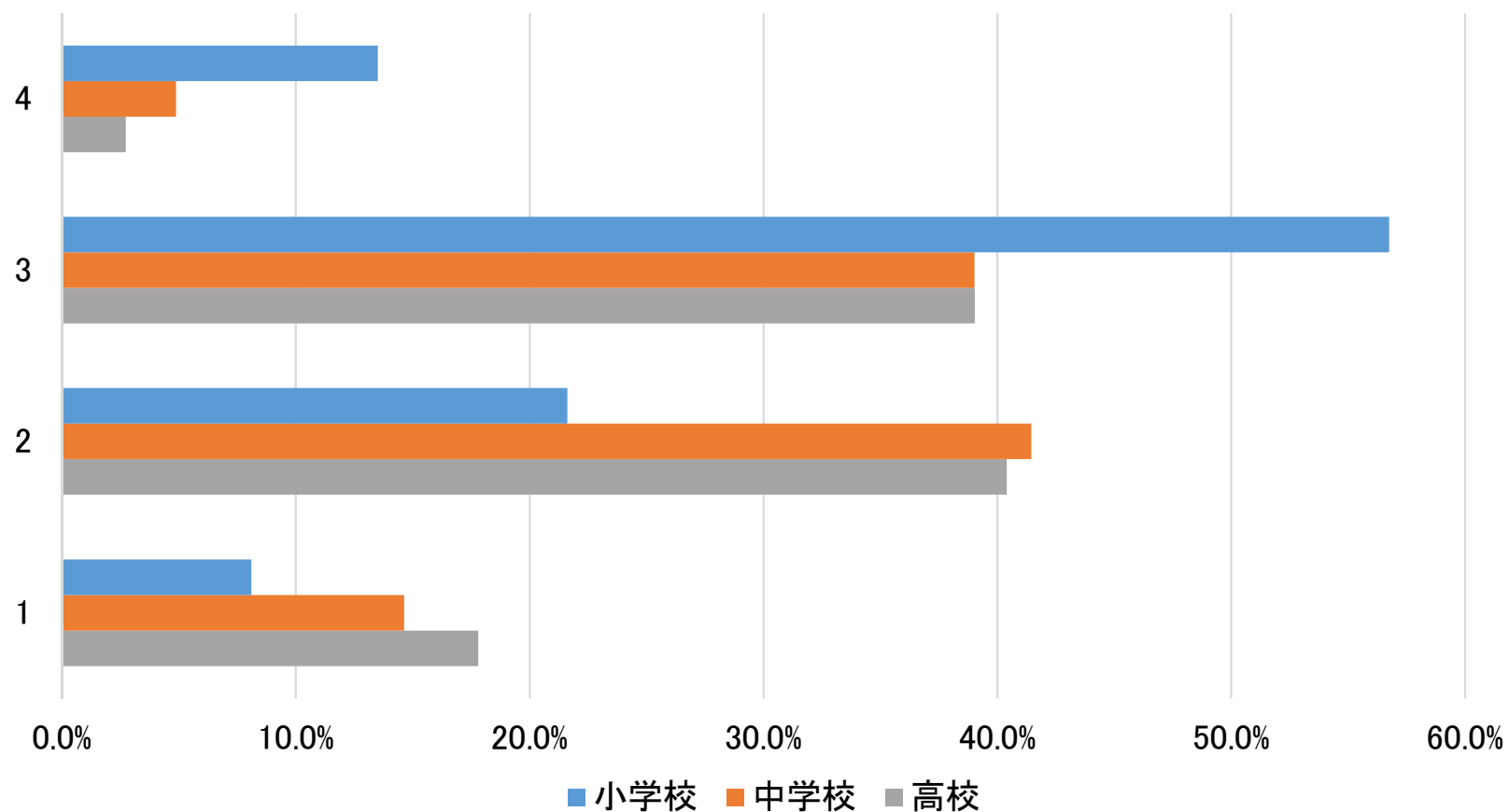
4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

キ 本教材を通して、児童生徒と話すきっかけになると思う。



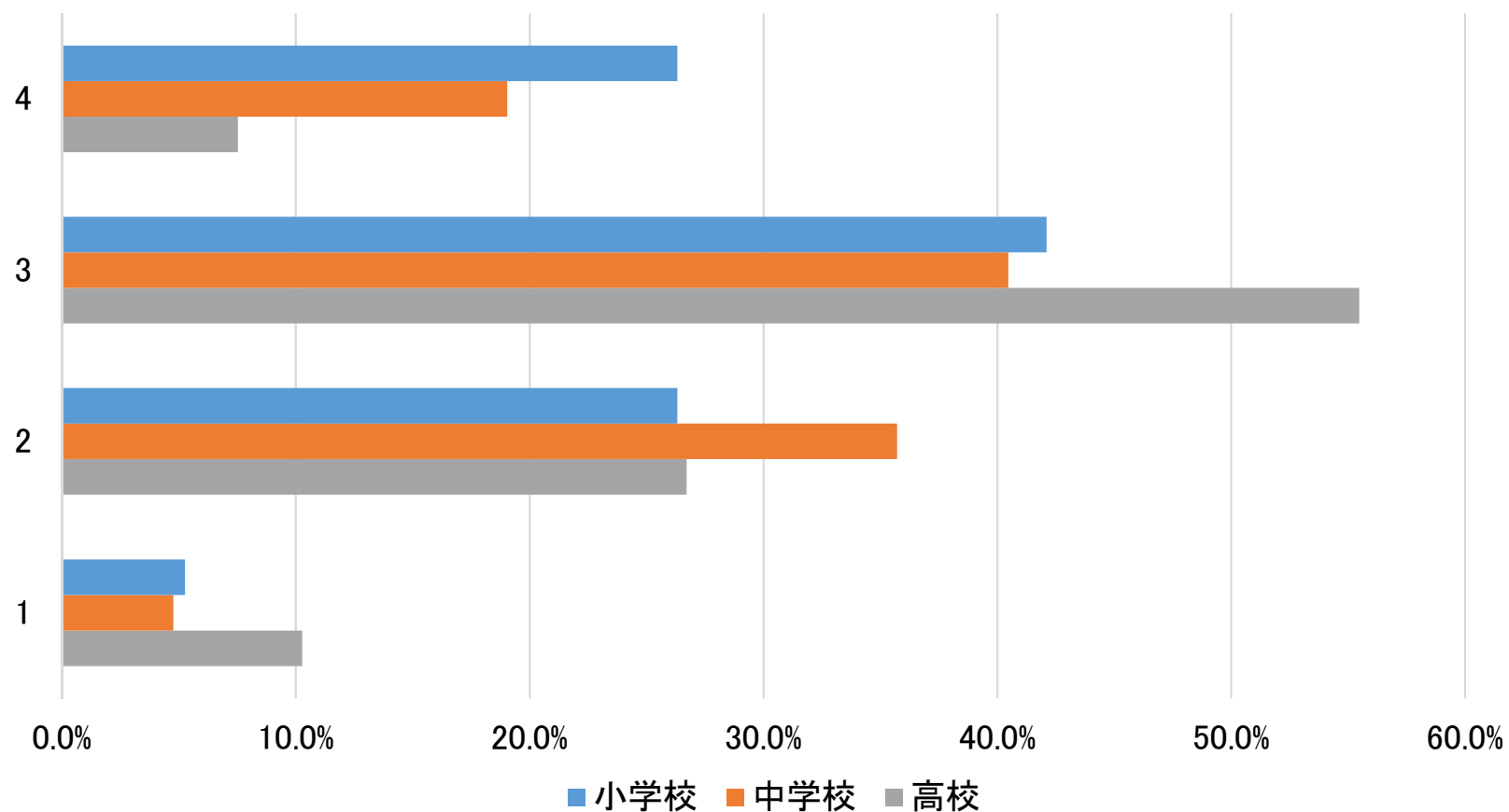
4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

ク 児童生徒の本教材への記入内容を見て、成長を感じたと思う。



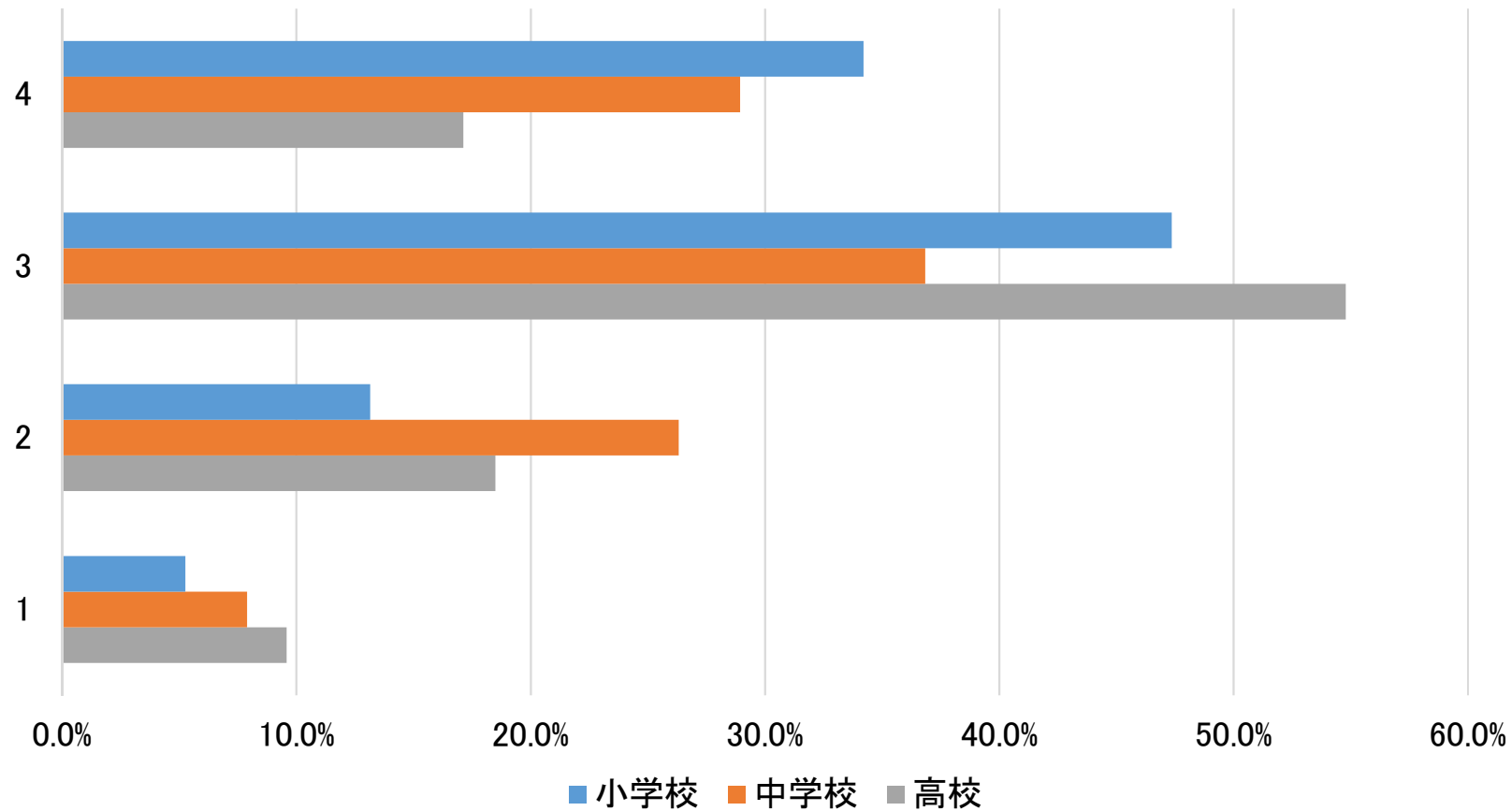
4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

ケ 本教材は、児童生徒が学年を振り返るのに有効であると思う。



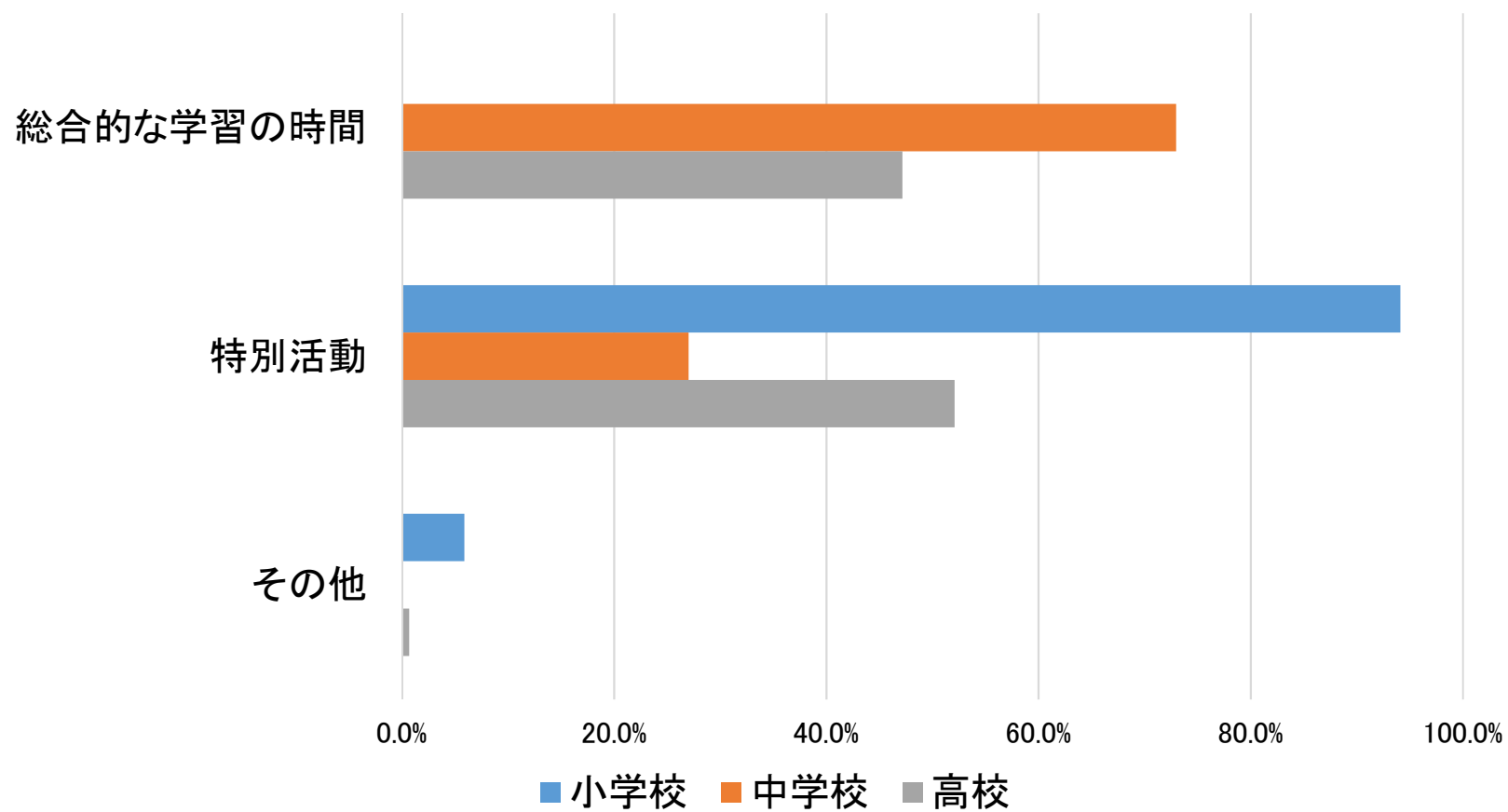
4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

コ 本教材への記入時期は年度初めと年度末の2回が適当であると思う。

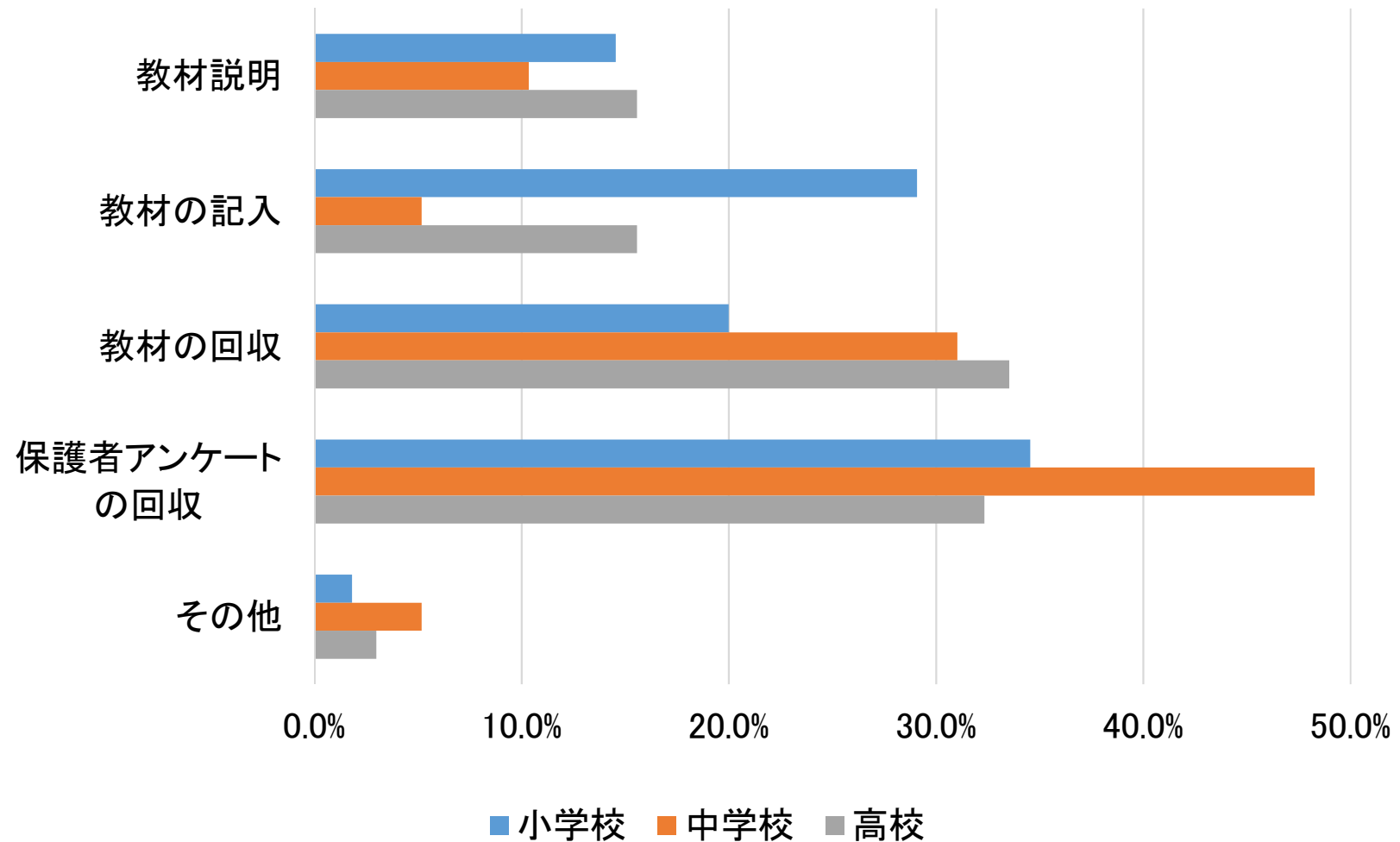


4:とても思う、3:少し思う、2:あまり思わない、1:思わない

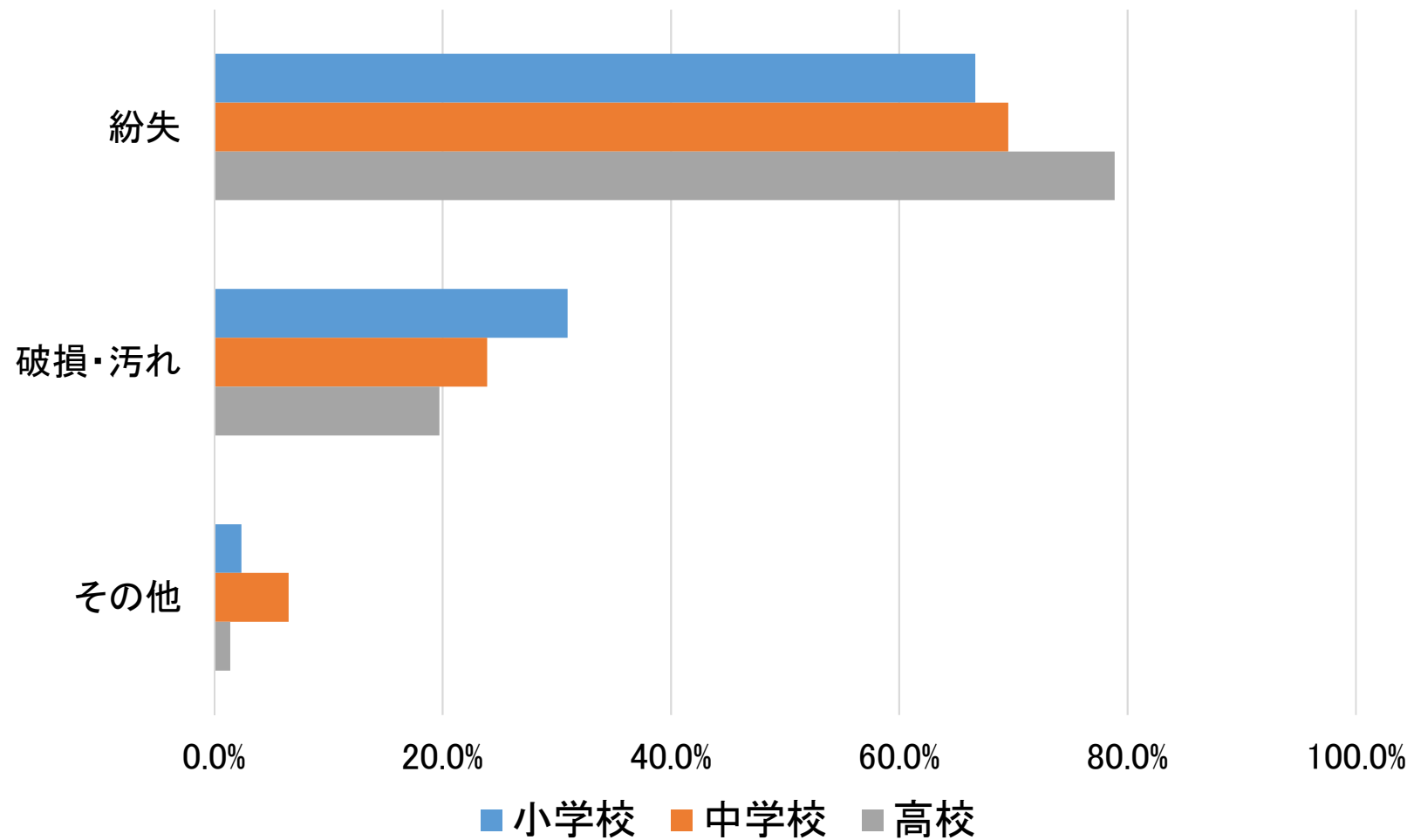
サ 何の時間を利用して記入させましたか。



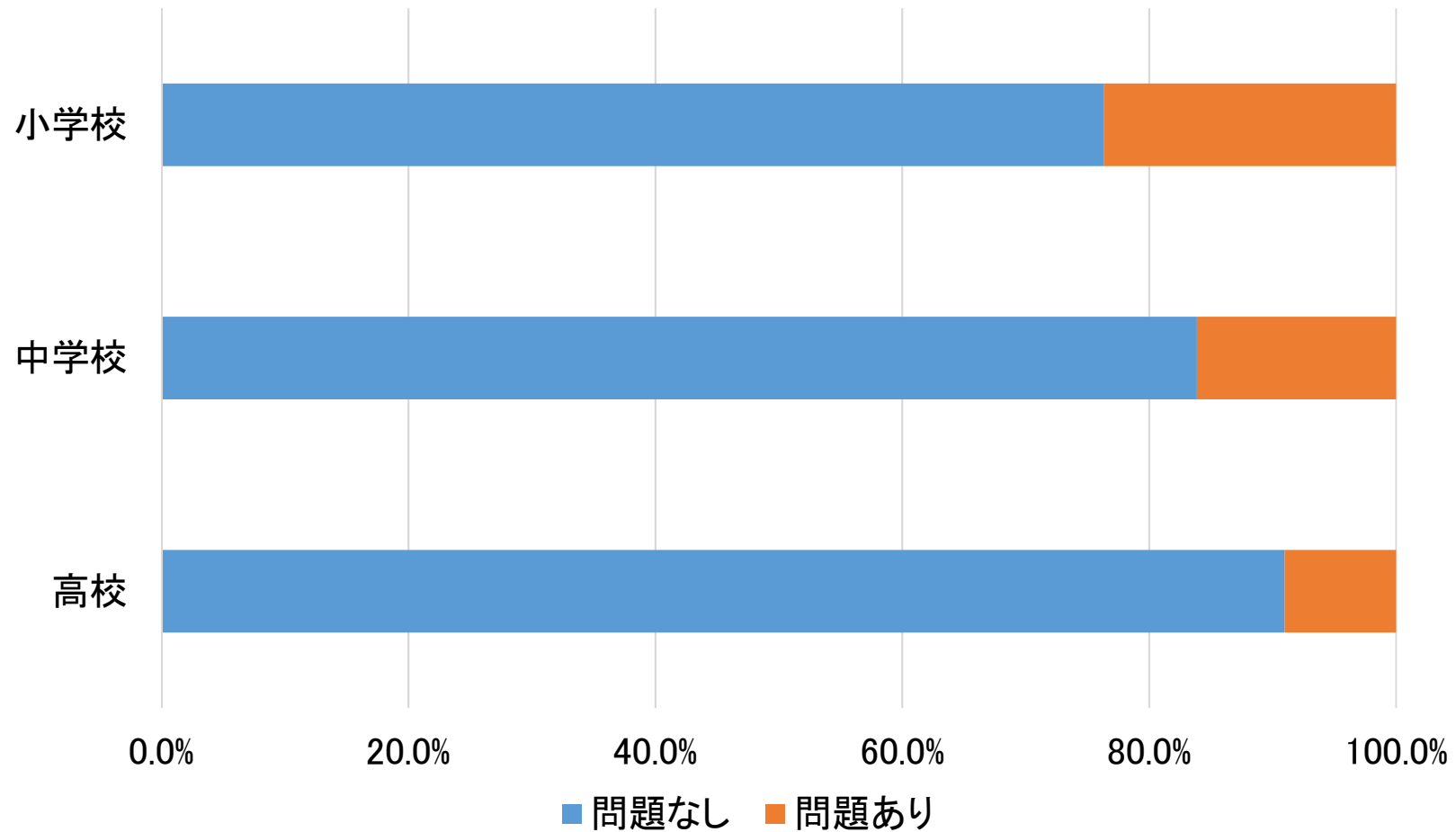
シ 指導上の困難な事例は何ですか。



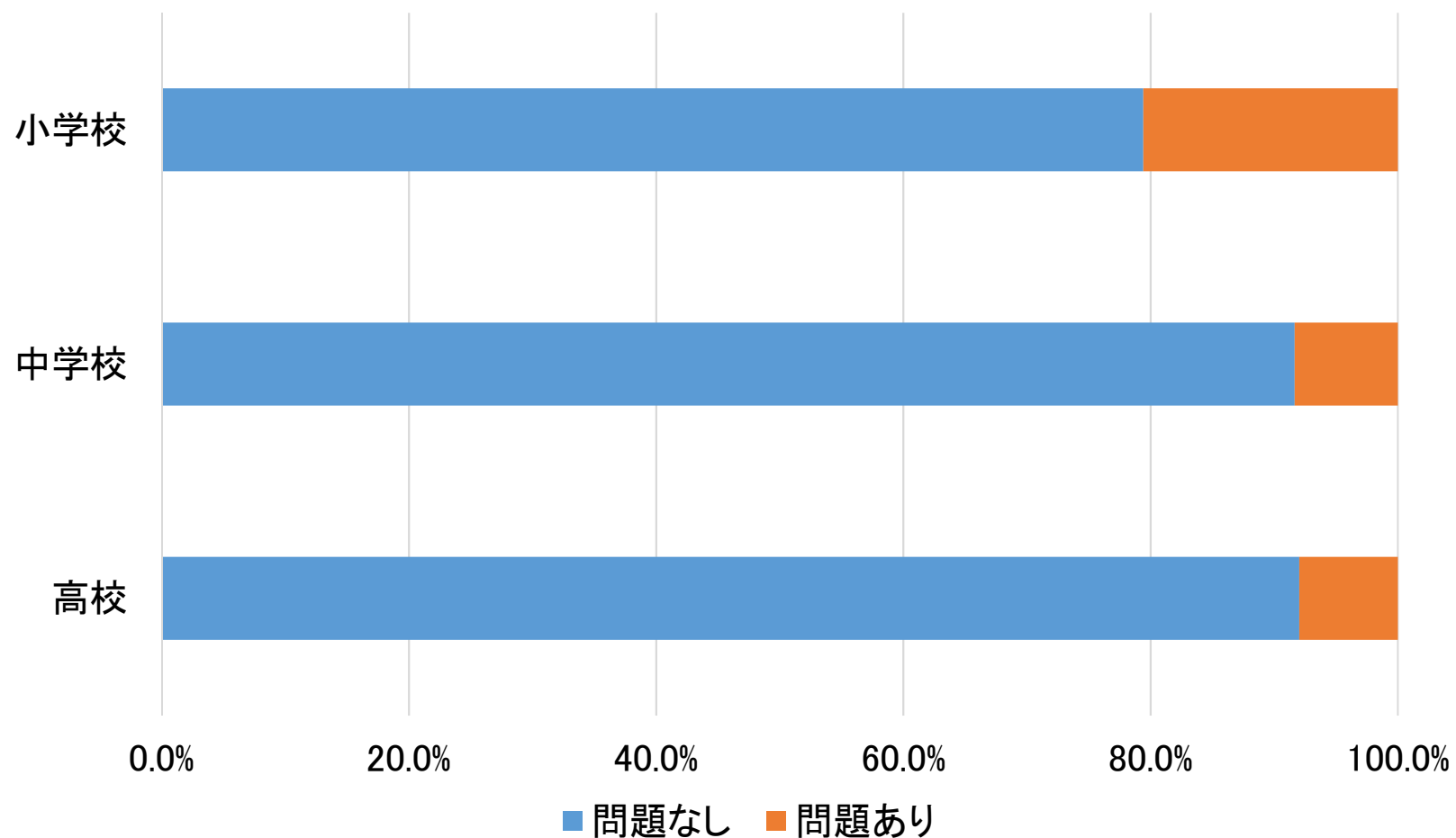
学年が上がるとき(引継ぎ)の不安要素は何ですか。



セ 保護者への対応について、記入してください。



ソ 児童生徒への対応について、記入してください。



(4) 平成30年度教材引継ぎに関する調査結果

ア 中学校での引継ぎ状況(4小学校から1中学校)

進学生徒数計 179名

教材持参生徒数 170名 (95.0%)

イ 高等学校での引継ぎ状況(1中学校から3高等学校)

進学生徒数計 98名

教材持参生徒数 55名 (56.1%)

9 取組から見えてきたこと

(1) 学校

ア 児童・生徒の記入

- ・目標と振り返りを行うことで、子どもたちの変容を把握しやすい。
- ・記入にあたっての、説明が難しい。
- ・記入に充てる時間の確保が難しい。
- ・既存の教材との内容の重複がある。
- ・小1には、年度初めの記入は難しい。
- ・書くことが苦手な生徒の指導が大変である。
- ・記入の意義をしっかりと伝える時間がない。

イ 保護者のコメント記入

- ・保護者が子どもの考えを知るきっかけとなった。
- ・何を書いていいのかわからない。
- ・コメントの記入に協力的であるところと、そうではない保護者がいる。
- ・伊都っ子ノート以外にも、様々なアンケート・書類を記入してもらうため、保護者の負担が大きい。

9 取組から見えてきたこと

(1) 学校

ウ 教員コメントの記入

- ・教師のコメントが負担になる。
- ・記入や内容の点検を行う時間の確保が必要である。
- ・コメントの記入例を示してもらいたい。

エ 教材の配布と回収(児童生徒、保護者)

- ・紛失、汚損・破損が心配
- ・保護者に記入してもらうために、家庭に持ち帰らせてからの回収の負担感が大きい。

オ 保管(管理)

- ・担任が保管する学校がほとんどである。
- ・保護者欄の記入内容等のプライバシーにかかわる事項があるため、子どもたちが自由に閲覧できない場所に管理する必要がある。

9 取組から見えてきたこと

(1) 学校

カ 学年間の引継ぎ

- ・児童・生徒に持ち帰らせず、旧担任が新担任に引き継ぎを行っている。
- ・高校は、生徒に自己管理をさせている。

キ 学校間の引継ぎ

- ・小中学校の引継ぎでは、スムーズに引き継ぎができた。
- ・高等学校では、入学当初に伊都っ子ノートを持参した生徒を認識することができなかった。

ク その他

- ・年度始・末の活用以外に、学校行事での活用する学校もある。
- ・不登校、特別支援を要する児童生徒への対応
- ・転入、転出する児童生徒への対応
- ・既存の教材との整理が必要である。

9 取組から見えてきた課題

(2) 管理機関

ア ファイルとしての素材の活用

- ・紙媒体であれば、その場その場で記述ができる。
- ・12年間で1冊であれば、最新の教育事情等に対応できない恐れがある。
- ・学年、学校間の連携が取れないと、一貫性のないポートフォリオになる恐れがある。

イ 教材の内容

- ・小学校低学年は、選択肢から選べるように改善することも必要
- ・各学校の負担を考慮すると、小学校中学年からのスタートで対応できるのではないか。
- ・1年間で取組んだ内容を学年で2ページにまとめる作業が大切である。
- ・内容が重複し不要といわれる部分もあるが、必要な項目もあるため、今後も内容の検討が必要である。

9 取組から見えてきた課題

(2) 管理機関

ウ 各学校の独自教材との融合

- 各学校共通の部分と、学校の裁量で選択できる設問に分ける。
- 各学校の教材をキャリア・パスポートに統一すると重複を避けられる。

エ 記入時期

- 年度始、年度末の2回で妥当である。
- 年度途中のワークシート等は、ファイルに取り溜めるようにする。
- 年度末にワークシート等をまとめる作業が必要である。

9 取組から見えてきた課題

(2) 管理機関

オ 教員・保護者欄のコメントの記入

- ・働き方改革もあるが、子どものふりかえりに対して、**保護者や教員のコメントは重要な意味がある。**
- ・保護者のコメントに関しては、学校の実態に応じて検討する必要がある。(確認印等の対応)
- ・コメントの記入例を示すと、一律のコメントとなり、キャリア・パスポート自体の意味がなくなってしまうのではないか。

カ その他

- ・教材の保管方法の検討(教室、職員室、個人、PDF化)
- ・学年進行や校種の持ち上がりで、途切れないようにする必要がある。

10 普及活動、今後の課題

(1) 普及活動

- ・成果と課題について研修会等での報告
- ・成果物のHPでのアップロード

(2) 今後の課題

- ・学校や地域の独自教材や他の教材との整合性
- ・教材のデジタル化
- ・地域限定で実施では、キャリア・パスポートの活用に限界がある。
- ・全国一律の取組として、校種、学校を問わない活動にしなければ、12年間継続の記録とはならない。